

# アスモ新聞

2007年12月1日(火)

人に喜ばれる仕事を!!のアスモは、みなさまとの新たな出会いをお待ちしております。

発行所  
在宅介護センター・アスモ

創刊第27号

〒165-0026  
中野区新井1-26-4 オスカーマンション2F

☎03-5318-4007



代表取締役 花堂浩一

## 「おばあちゃんのおにぎり」



「秋桜」や「無縁坂」といった母を題材にしたヒット曲で有名なシンガーソングライター「さだまさし」さん。彼の祖母は、四十年以上前に他界しましたが、心の中では、今でも「さだ」さんをしかるそうです。生きていたころは、しかられたことなどなかったのですが、有名になり、周りからちやほやされていると、きまつて心に祖母が現れ、「感謝しなさい」「感謝しなさい」といいます。これは、「さだ」さんの少年時代のある出来事がトラウマになっているからだそうです。七歳のときのこと。誕生日を翌日にひかえたまさしくんに母親が「明日はごちそうを作るわよ。何が食べたい?」と声を掛けると、「ごちそうを思い浮かべ」ポテトサラダにシユウマイ、たこさんウィンナー!あと、ケーキに桃の缶詰!とまくし立てました。すると、少し離れたところで聞いていた、丸縁眼鏡の祖母が、「明日は、おばあちゃんもお祝いしてあげるよ。お前がいちばん好きなものをあげようね」。まさしくんは眠れないほどワクワクしました。

誕生会当日。主役のまさしくんの為に、近所や学校の友達大勢が集まってお祝いをしてくれました。部屋の大きなテーブルにはごちそうが並べられ、その端には、祖母が作ったおにぎりもおかれてありました。おばあちゃんのおにぎりは、中に具が入っていない、ノリも巻いていない塩むすび。けれども形も、星形や四角、俵形などいろいろで、まさしくんの大好物です。ところがその日は、他にごちそうが山盛り。見慣れたおにぎりは、最後にテーブルの上にポツンと残ったままです。「おばあちゃんプレゼントって何?」と尋ねると、「お前の大好きなおにぎりがあったらどう。あれがおばあちゃんからのプレゼントだよ」参加者からは、ブリキのおもちや絵本など豪華なものばかり。それを思うと、だんだん腹がたつてきて、まさしくんは「もういいよ」と外へ飛び出してしまいました。夕暮れに、家に帰ってみると、薄暗い台所で、おばあちゃんがおにぎりを漬けて、お茶漬けにして食べようとしていました。祖母からの誕生日プレゼントが、くずれていく。ドキリとした、まさしくんが、泣きながらおにぎりを二つついっぺんにはおぼると「無理なくて、いいんだよ」とおばあちゃんは頭を優しくなでてくれました。それ以来、ちやほやされても、必ずこの祖母を思い出すそうです。ものが溢れ、表面や形のみこだわる今の時代、大切なことを思い出してみたいと思います。

## 【精神疲労・鬱(うつ)に効くツボ】

**頭臨泣 (あたまりんきゅう)**  
イライラしたときに丸いもので刺激する

**印堂 (いんどう)**  
頭痛・目奥の鈍痛をやわらげて、気分をスッキリさせる

**本陣 (ほんじん)**  
頭痛やさまざまな痛みを抑える

**神門 (しんもん)**  
親指で強めに刺激するとイライラや不安からくるドキドキを抑える

**湧泉 (ゆうせん)**  
疲労を回復させ、リラックス効果もある。元気がわいてくるツボ

**労宮 (ろうきゅう)**  
親指で軽く指圧すると自律神経を活性化しイライラを抑える

イライラを解消して、さわやかなお正月をむかえましょう。



## 勉強会のご報告



さる11月17日（土）、ヘルパーさんの勉強会が、たんぽぽ介護のヘルパーさん方と合同で行われました。  
 まず、河崎先生のインフルエンザについての講演がありました。インフルエンザの経緯や種類から予防まで分かりやすくご説明いただきました。  
 次に、山口ケアマネージャー様（共立病院）に介護保険〇×クイズ、ヘルパー心理テストを行っていただきました。分かっているようで思い違いがあったり、心理テストの意外な結果に盛り上がったりと楽しい雰囲気の中で学ぶことができました。  
 最後にインフルエンザの予防接種をしていただき、2時間という短い時間でしたが、有意義な会となりました。



### シリーズ2

なかのものごと

〓中野町

徳川五代將軍綱吉は世継ぎの徳松を失ってから子供ができず、悩んでおりましたが、母の崇拝する僧から「子供ができないのは、前世に生きものを多く殺した報いなので、子供を求めらるなら生きものを愛し、殺してならぬ。いぬ年の生まれなので、犬をとくにたいせつにするがよい。」と進言されました。

そこで綱吉は、犬などの動物を大切に「生類を憐みの命令」（貞亨二年・一六八五年）を出しました。これが高じて魚・鳥・貝類を食料にすることを禁じ、他所の犬を保護し病気の動物を捨てないようにとの命令を出しました。病気の馬を捨てて流刑に処せられたり、犬を斬って八丈島に流された者もいたということです。犬目付という役人が町中を調べて歩きました。

飼い主のいない犬に食べ物をやるとその家を離れなくなるので誰もやらなくなり、町中にふえた野犬が、飢えて人にかみつくようになりました。こんな状態を放置できなくなった幕府が、中野村に大規模な犬小屋を建てることになりました。

今の中野駅を中心に、東はもみじ山通りから、西は高円寺あたりまであったといえます。その中に二十五坪の犬小屋が二九〇棟、七坪半の日除け場が二九五棟、子犬養育所が四五九箇所もあり、役人の住居や附属施設がありました。この犬小屋もすぐに満杯となり、入りきれなかった野犬は中野村や付近の農家に預けて飼育させました。この費用は、三年間で三万五千両（一両＝50〜60万円位）もかかったそうです。

当時、中野村の犬小屋を、中野御用（または中野御用屋敷）と称し、一の囲から五の囲までの総面積は三十万坪にもおよんでいました。この犬小屋は宝永六年（一七〇九年）まで続きました。

